

「わたしの音楽 みんなで音楽」

～音楽を形づくっている要素を感受し 自ら広げる音楽の世界～

主題設定の理由

新学習指導要領では、一人ひとりの児童生徒がより主体的に音楽を学ぶことを目指している。子どもたちが音楽のよさを感じ取り、思考、判断して自分のイメージにあった表現を導き出そうとするなど、音楽の授業が「思考・判断・表現」する場となることが、いっそう求められている。

「私が感じた音楽」「私が工夫した音楽」「私が表現した音楽」「私がつくった音楽」など、音楽と向き合い様々な活動をすることで、「私がいいなと思う音楽」「私が好きな音楽」など、自分の価値観を持って音楽を愛好し、自分の言葉や音楽でよさを語り、表現することが音楽の学力と言える。

また、子どもたちが互いの音楽を価値あるものとして受け入れ、心地よい音楽を形づくっている要素についてイメージを共有しながら、みんなで音楽を試行錯誤したりする活動も「思考・判断・表現」を高めることに有効であろう。こうした活動を積み上げる中、子どもたち一人ひとりに音楽を通して自己表現が高まることを願い今年度の研究を行った。

I 研究の内容

1 研究の具体的内容

(1) 教材研究

- ・音楽科としておさえるべき基礎・基本の分析
- ・教材選択の視点の明確化
- ・講習会（音楽の基礎作り・合唱指導と実践）

(2) 授業研究

- ・子どもたちがそれぞれの思いを実現し、音楽的満足感を味わえる授業の工夫
- ・音楽を形づくっている諸要素をどのように知覚・感受させ、よりよい表現につなげていくか
- ・子どもたち一人ひとりの思いや意図を伝え合う活動の充実を図る
- ・小中学校の発達段階に合わせた系統性のある指導について

(3) 明日の授業づくりと教師の技能向上のために

- ・平成29年度東山梨小中学校音楽発表会での合唱実践
- ・教職員音楽発表会出演（合唱「いまだよ」「絆」） 毎回の実践研修（合唱）
- ・授業に生かせる講習会・学習会 2回実施
- ・音楽の実践発表（音楽授業の実践・音楽集会など全員が発表）

2 研究の方法

(1) 教協研究日 (10回 うち統一授業研究日 2回)

- ・加納岩小学校 平井祥子先生 (9月)
- ・松里中学校 平山昌実先生 (2月)

(2) 講習会・学習会

- ・講師：秋山小学校 和智宏樹先生
「わくわく 音楽活動へのステップ」(6月)
- ・講師：合唱指揮者 依田 浩先生
「歌の力を引き出す 合唱指導のヒント」(7月)

II 成果と課題

今年度は、これまでの研究をいかしながら、教師の指導力向上をめざし講習会・実践報告、合唱練習を行った。講習会では秋山小の和智先生を招き、子どもを魅了する常時活動から「音楽の基礎づくり」や「仲間づくり」についての実践を学んだ。また、合唱指揮者の依田先生を招いての講習会では、「音楽のもつ総合力」について感情表現や関わり合い、言葉や体への感心、心地よさ美しさ、感性、想像力などに触れ音楽の魅力を見つめ直すことができた。

実践報告では、日々の授業の様子や工夫について交流でき参考になった。発達段階に沿った指導法や小中の連携という点からも、テーマを決めて取り組む事を検討していきたい。

研究授業は小学校中学校とで2回行い、授業の流れや内容を共通理解した上で臨むことができた。小学校では、子どもたちが自分の「リズム伴奏作り」を通して「音符や休符」理解を深め、「リズムの組み合わせ方」や「反復や繰り返し」の「音楽のワザ」を知ることによって様々な表現に気付き、自分の思いを持って意欲的に活動する授業であった。中学校では、松里の伝統祭り「藤木の太鼓乗り」を導入に、歌舞伎の「勸進帳～長唄～」を題材とし、日本の伝統音楽と西洋音楽を比較しながらその魅力に気づかせる興味深い授業であった。

授業の中で子どもたちは、「わたしの音楽」を組み立てた後、言葉や音・音楽の要素など交流し、さらに練り上げた「みんなの音楽」へと高めていく姿が見られた。

1年を通して小中連携を意識し、実践的な指導について学ぶ有意義な機会となった。来年度は、県のテーマも変わることから新たな気持ちで研究に臨んでいきたい。

III 成果物

○小学校 第4学年 「音楽のワザを使って『陽気な船長』のリズム伴奏をつくろう」

加納岩小学校 平井 祥子先生

○中学校 第2学年 「日本の伝統音楽に親しもう～長唄にチャレンジ～」

松里中学校 平山 昌実先生

(部長 金子 佐由美)